第28回審査員　秋山庄太郎

た。第28回岩手芸術祭の審査員に写真界の大御所である写真家の秋山庄太郎氏を招いてこれまでにない盛り上がりぶりを見せた。又、この年から、審査員を一人とすることになり以後現在までその方法が踏襲されている。出品者は163人、272点であった。

昭和50年（第29回岩手芸術祭）'75　岩手県芸術文化協会

役員は留任、事務局長に柏原悌一に代わり斎藤祚雄が任命された。この年社団法人岩手県芸術文化協会が設立された。岩手県写真連盟は加入申込会員に登録された。その芸文協に対して、次の第30回岩手芸術祭に向けて写真部門として会員の意見をまとめ意見書を提出した。その内容は以下のとおりである。

1　開幕行事の際、功績顕著な者を表彰すること。
2　大賞並の賞を各部門に出すこと。
3　展示場を工夫すること。
4　優秀作品を買い上げること。
5　他県芸術祭との交流展等を行うこと。（北海道・東北芸術文化協会など）
6　文化庁の県展選抜展の誘致を行うこと。

昭和51年には連盟結成10年目を迎えるので、連盟結成10周年記念事業として「写真集・岩手の風土」。A四版変形・二百頁で一人一頁一万円の負担としての出版について提案し、アンケートで意見の取りまとめを行った。しかし、残念ながら賛成を得られず日の目を見ることはなかった。第29回岩手芸術祭の審査員は前年に引き続き写真家秋山庄太郎氏に依頼した。出品者166人、276点であった。

昭和51年（第30回岩手芸術祭）'76　芸術大賞　柏原悌一氏

役員は留任変更無し、この年は連盟結成10年目を迎え記念出版事業を企画したが予算が伴わず断念した。第30回を迎えた岩手芸術祭の記念すべき年に審査員の写真家秋山庄太郎氏を3回目として依頼した。柏原悌一氏の「焼く」が芸術大賞に輝いた。出品者166人、254点であった。

昭和52年（第31回岩手芸術祭）'77　三代会長　松本源三

役員改選の結果、第三代目の会長として、松本源蔵が選出された。副会長には沢野耕一郎と柏原悌一が任命され、事務局長には高橋秀男が任命された。監事は小川文男、熊谷岩奇、事務局は石母田四郎、星岩男、佐々木秀雄。第31回岩手芸術祭の審査員には写真家の林忠彦氏を依頼した。この年から各部門に芸術祭賞が設けられた。出品者は111人、258点であった。